

線に 80 封度以上の圧力を以つてセメントを注入す (表-1. 参照)。

- (ニ) サージタンク: 溢流式シンプル サージ タンクにして内径 10.91 m の円形鉄筋コンクリート造, 高さ 11.23 m, 最高水位の時の餘裕 0.91 m, 溢水頂長 6.52 m, 5 m<sup>3</sup> を充分溢流し得。
- (ホ) 餘水路: 水槽附近及び道路横断箇所は幅 1.21 m, 高 1.36 m の暗渠とし, その他は天然の澤を利用し所々に護岸石積を築造す。
- (ヘ) 水圧鉄管: 條數 1 本, 内径 1.82~1.51 m, 管厚 8~10 mm, 延長 271.37 m, 最大勾配 1 割 2 分, アンカー ブロック數 6 箇, 受臺平均間隔 6 m, 継目は縦横断共電気銲接とす。
- (ト) 發電所: 建家鉄筋コンクリート造, 水車横軸双羽渦巻型反動水車 1 臺, 4 800 HP 720 回転毎分, 吸水落差 5.242 m, 日立製作所製, 發電機 3 500 KW 1 臺, 6 600 V 日立製作所製。
- (チ) 放水路: 幅 3.64 m, 高さ 2.12 m, 延長 14.55 m, 勾配 1/1 200, 捲厚 0.365 m。

4. セメント使用量 14 000 樽  
 5. 工事費 572 000 円  
 6. 工事執行者 平電力株式会社

土木工事監督者: 東京測量社中村新太郎

土木工事請負者: 加藤組

鉄管及び門扉類請負者: 安藤鉄工所

水車, 發電機, 配電盤その他: 日立製作所

7. 起工年月 昭和 9 年 11 月

8. 竣工年月 昭和 10 年 7 月

表-1.

名 稱	延 長 (m)	名 稱	延 長 (m)
第 1 號 暗渠	392.36	第 5 號 隧道	140.33
第 2 號 隧道	372.82	第 6 號 ,,	475.93
第 3 號 ,,	205.22	第 7 號 ,,	100.53
第 4 號 ,,	3.64		

## 雄谷川水力発電所工事概要

准員古田一三六\*

### 1. 箇所名

位 置: 石川県石川郡吉野谷村字中宮

河 川 名: 手取川水系尾添川支流雄谷川

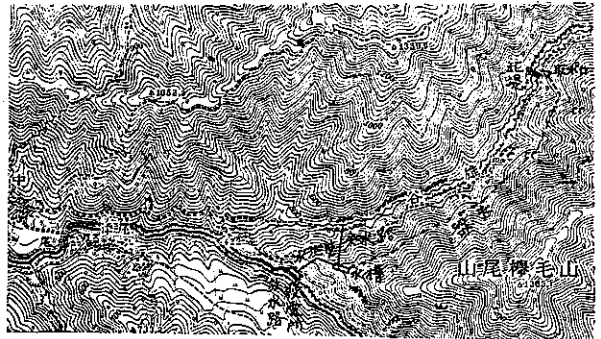
取 水 口: 石川県石川郡吉野谷村字中宮

放 水 口: 同 上

### 2. 計畫概要

本發電所は手取川上流雄谷川に於て吉野谷村字中宮地點に基礎岩盤上 13.6 m の玉石入コンクリート表面張石の堰堤により貯水量 27 719 m<sup>3</sup>, 利用水深 3.79 m に於ける有効容量 17 712 m<sup>3</sup> の調整池を設け, 之れより約 2 810 m の隧道に據り發電所に導水し中宮地先に放水するものなり。

図-1. 平面圖



\* 選信技手 選信省電氣局勤務

使用水量：最大使用水量 1.70 m<sup>3</sup>，常時使用水量 0.501 m<sup>3</sup>，常時尖頭時水量 0.834 m<sup>3</sup>

有効落差：22.15 m.

發電力：最大出力 3000 KW，常時出力 880 KW，常時尖頭出力 1500 KW

### 3. 構造物の概要

- (イ) 堰 堤：基礎岩盤 石英粗面岩（一部石灰岩）  
 型 式 動力式コンクリート堰堤（玉石入コンクリート表面張石，コンクリート總容量 3070 m<sup>3</sup>）  
 堰 高 13.6 m.  
 堰 長 31.67 m，天端幅 2.12 m.  
 排砂門 幅 1.818 m，高 2.424 m，鉄製，4 門  
 ● 捲上装置は電動及び手動，20 HP 電動モーター 2 臺  
 堰堤表背面法 上流面 0.10，下流面 0.80.
- (ロ) 取水口：延長 10.0 m，最大幅 5.0 m，全部コンクリート造木製門扉及び捲揚機を取り付け鉄製柵除格子を設置す。
- (ハ) 水路：互長 2819 m，内暗渠 8.2 m，隧道 2810.8 m，勾配 1/1200  
 第 1 號隧道の一部に沈砂池を備へ全部コンクリートを以つて築造す，形状は内法 1.455 m，側高 1.00 m，上部拱矢 0.455 m の缺円，底部拱矢 0.15 m の缺円よりなるものとす（表-1. 参照）。

表-1.

名 稱	延長(m)	名 稱	延長(m)	名 稱	延長(m)
第 1 號 隧 道	99.0	第 7 號 隧 道	233.2	第 13 號 隧 道	207.5
第 2 號 „	239.0	第 8 號 „	208.0	第 14 號 „	247.0
第 3 號 „	222.0	第 9 號 „	140.1	第 15 號 „	142.8
第 4 號 „	177.3	第 10 號 „	204.7	暗 渠	8.2
第 5 號 „	160.0	第 11 號 „	137.3		
第 6 號 „	141.4	第 12 號 „	246.5		

- (ニ) 沈砂池：第 1 號隧道の終端に於て延長 43.0 m，幅 3.0 m に擴大し，1 側に溢流堤及び土砂吐門を設く，敷勾配は 1/90 及び 1/70 とす。
- (ホ) 水 槽：延長 87.0 m，最大幅 11.24 m，最大深 5.55 m，1 側に有効幅 6.6 m の溢流堤及び 0.91 m，高 1.22 m の排砂門を設置す，全部コンクリートを以つて築造す。
- (ヘ) 餘水路：水槽溢流開渠に接続し，暗渠にして形状は内法幅 0.6 m，高 0.7 m にして，全部コンクリート造りとし終端近くに開渠の水層を設く。
- (ト) 水圧鉄管：條數 1 本長さ 601.7 m，内径上部 0.90 m，下部 0.60 m，厚さ上部 4.5 mm，下部 16.0 mm，鉄管總重量 109.16 t，軟鋼製大部分電氣銲接なるも現場接合の箇所は銲接とす，最大勾配 1/1.15，アンカーブロック數 11 ケ所，受臺平均間隔 6.0 m。
- (チ) 發電所：水車 ベルトン，橫軸單輪複射式 2 臺，1 臺の KW 數 1790 KW

600 回転毎分, ランナー材料鑄鋼, 日立製作所製

發電機 2000 KVA 2 臺, 力率 80%, 600 回転毎分

(9) 放水路: 全部隧道にして内法 1.12 m, 側高 1.12 m, 上部拱矢 0.25 m の缺円形を甲種として, 乙種は内法 1.455 m, 側高 1.0 m, 上部拱矢 0.455 m の缺円とす, 互長 145.0 m, 勾配 1/500~1/1000

5. セメント使用量 50443 袋

6. 工事費 901000 円

7. 工事施行者 雄谷川電力株式会社

土木工事監督者: 越前谷信慶

土木工事請負者: 前田又兵衛

鉄管及び門扉類請負者: 酒井鉄工所及び日立製作所

8. 起工年月 昭和 9 年 6 月

9. 竣工年月 昭和 10 年 7 月

## 学 術 振 興 會 記 事

會 員 工 学 博 士 藤 井 眞 透\*

### 1. 學術振興會第 11 常置委員會の委員改選

學術振興會の學術部第 11 常置委員會は土木学及び建築学の部會で昭和 10 年度委員長工学博士物部長穂、九大教授工学博士君島八郎、日大教授工学博士佐野利器の諸氏が選任せられて昭和 11 年度委員として次の新委員が任命された。

委員長	東大教授	工学博士	内田祥三			
	東大教授	工学博士	山口昇	内務技師	工学博士	藤井眞透
	京大教授	工学博士	平野正雄	東大教授	工学博士	岸田日出刀
	九大教授	工学博士	林桂一	京大教授	工学博士	坂静雄
	北大教授	工学博士	吉町太郎一	早大教授	工学博士	内藤多伸
	鉄道技師		山田隆二	陸軍工兵大佐		桑原四郎

#### 第 11 常置委員會第 16 回會議

昭和 11 年 1 月 23 日午後学士院に於て開催, 委員長として内田祥三君選ばれ, 特別及び小委員會新設の件, 分擔委員より已終援助補助研究の審査結果報告, 本年度に於て行ふ援助補助研究の視察, 昭和 11 年度に於ける學術振興具体案に對する意見及び希望の開陳, 昭和 11 年度學術部關係希望豫算に對する意見及び希望の開陳, 特別及び小委員會の昭和 11 年度豫算申請並に昭和 11 年度前期援助補助申請の審議に關する申合せをなし, 審議の爲に開く常置委員會の期日を 3 月 9 日と決定し尙共同審査委員の選定を行つた。

### 2. 學術振興會第 4 特別委員會の設置

\* 内務技師 内務省土木試験所勤務